

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 コミュニティ看護学分野	修了年度	2019 年度
氏名	前田 直宏	指導教員 (主査)	板山 稔 (安齋 ひとみ)

論文題目	慢性閉塞性肺疾患療養者に対して訪問看護師が行う セルフマネジメント教育の実態と関連要因
------	--

本文概要

【目的】

慢性閉塞性肺疾患 (chronic obstructive pulmonary disease : COPD) 療養者に対する訪問看護師のセルフマネジメント教育の全国的な実態を把握し、訪問看護師の特性やセルフマネジメント教育前の初期評価、連携の頻度、看護上の課題との関連をあきらかにすることを目的とした。

【方法】

全国の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師 3,000 名を対象に、セルフマネジメント教育の実施経験、基本特性、セルフマネジメント教育実施前の初期評価、他職種との連携の頻度、看護上の課題について、郵送法による無記名自記式質問紙調査を行った。分析は、セルフマネジメント教育の実施経験を従属変数、その他の項目を独立変数として、t 検定と Spearman の順位相関分析を行い、有意差が出た項目と相関がみられた項目について重回帰分析を行った。

【結果】

315 人から回答が得られ、305 人を有効回答として分析した(配布数に対する有効回答率 10.2%)。セルフマネジメント教育の 16 分類では【ワクチン接種】【在宅酸素療法】【薬物療法】の順に実施経験が多く、【環境因子の影響】【栄養補給療法】【禁煙】【増悪の予防・早期対応】の順に少なかった。単項目では、「療養者の訴えに対して積極的に傾聴する姿勢を示している」の実施経験が最も多かった。セルフマネジメント教育の平均値を従属変数とする重回帰分析の結果、「女性看護師である」「COPD の勉強会の受講経験がある」「呼吸リハビリテーションの勉強会の受講経験がある」「管理職に就いている」「経済力の初期評価をよく行っている」「重症度の初期評価をよく行っている」「動機付けの初期評価をよく行っている」「介護支援専門員とよく連携している」「酸素供給業者とよく連携している」「保健師とよく連携している」の 10 項目の係数が統計的に有意であった。調整済み R²は 0.540 (p<0.001) であった。

【考察】

訪問看護師は、COPD 療養者に対して増悪予防のための十分なセルフマネジメント教育が行えていないことが示され、アクションプランの作成率を高めていくとともにその有用性について検討していくことが今後の課題である。一方で、多くの訪問看護師が積極的に傾聴する姿勢を示している実態等から、不安やうつ、認知症等の併存症を含めた統合的なケア (integrated care) を行っていることが推察され、長期的な介入として終末期の支援についても深く検証していく必要があると考えられた。セルフマネジメント教育を促進する要因は、慢性疾患の管理に影響を与える条件についての評価視点を持っていることであり、とくに重症度と動機付け、経済的な問題の 3 項目については初期評価の必須項目とすることを提言する。また、看護上の課題との関連については更なる検証が必要であるが、介護支援専門員等の他職種とよく連携することでセルフマネジメント教育を促進していることが示唆された。訪問看護師のセルフマネジメント教育を向上させるためには、全身性疾患としての COPD の病態をよく理解し、アクションプランを包括した呼吸リハビリテーションの勉強会を整備していくことが有用であると考えられる。

【keywords】

慢性閉塞性肺疾患, 訪問看護, セルフマネジメント教育